

8月6日(月)

いよいよお別れの朝を迎えました。

長いようで短かった1週間。すてきな思い出と、すばらしい体験ができた1週間でした。

別れを惜しみ、涙を流す団員もいます。団員が口をそろえて発した言葉は「まだ帰りたくない。もっといたい」その言葉が、この1週間を物語っていると思います。

「アメリカではさようならとは言わない。See you again(また逢いましょう)というのです」以前ホストファミリーが言った言葉です。

再会を約束し、団員は家族の待つ日本へ向け出発します。

(日本時間)8月7日(火)

午後6時過ぎ、団員は無事に小野町に帰ってきました。

団員の感想を聞くと「言葉は違っても、心は通じる」「アメリカの文化を感じ、日本の文化を見直すきっかけとなった」など、大きな成果があったものと思われま

アメリカのホストファミリーを始め、現地で指導に当たってくださったステイブンさん、クリスティンオブライエン夫妻、関係者の皆さんに深く感謝申し上げます。



お別れの朝、全員で記念撮影

団員からの報告

2年3組 大和田 夏紀
『笑顔で頑張ることの大切さ』

初めての海外研修、言語の異なる地で1週間過ごすのはとても楽しみでもありましたが、同時にとても不安でした。しかしグレンロックの方々のあたたかい笑顔に触れ、会話をしていくうちに少しづつ不安は消えていきました。不安だから下を向いているのではなく、上を向いて笑顔で頑張っていくことの大切さをグレンロックの方々に教えていただきました。1週間というのはとても短い期間でしたが、この1週間は私の考え方を大きく変えてくれました。言語の壁を越える笑顔の力をあらためて知ることにもなりました。どんなに歳をとっても忘れることはありません。今回の1週間の研修は、私の一生の宝物になりました。研修に参加させていただき、本当にありがとうございました。



大和田さん(右から2人目)

2年3組 西牧 亜実
『平成最後の夏』

私の研修の目標は「失敗を恐れず、チャレンジ精神を忘れずに行動すること」でした。初めは自発的に前に出ることがなかなかできませんでしたが、アメリカで生活をしているうちに、自分に自信が付き、積極的に行動することができるようになりました。完璧な英語は話せなくても、単語を並べ、手や体を使ったジェスチャーで、相手に自分の思いを伝えることができるということを学びました。アメリカの方々は、とてもフレンドリーで、たくさんお話ができ、楽しい充実した日々を送れました。平成最後の夏、8日間という長いようで短い期間をアメリカで過ごし、たくさんの経験をjして、思い出を作ることができ、とても良かったです。



西牧さん(左)

2年1組 秋田 夢侑
『今回の研修で感じたこと』

僕は、今回の研修を通して感じたことが2つありました。まず1つ目は、文化の違いについてです。アメリカでは食事が日本とは違い、主食がパンやパスタなどが多かったことと家の中で靴をはいて生活することです。

2つ目は、言語の違いについてです。自分は英会話が苦手な緊張していましたが、ホームステイ先の家族とコミュニケーションを取るとき、ジェスチャーや知っている単語などをうまく使って伝えることができました。

今回の研修で、アメリカの文化と日本の文化の違いが分かり、日本の文化が素晴らしいことをあらためて実感しました。



秋田さん(左)